

「 さ さ え 」

2009年7月発行 情報誌 第28号

発行 NPO福祉用具ネット事務局

住所:福岡県田川市伊田4395(福岡県立大学付属研究所 生涯福祉研究センタ - 内)

TEL/FAX: 0947-42-2286

E-mail npo-fukusiyogunet@sage.ocn.ne.jp

HP <http://www10.ocn.ne.jp/~npofynet/enter.htm>

情報誌「ささえ」は年4回(1月・4月・7月・10月)発行しています。

印刷 よしみ工産(株) 北九州市戸畑区天神1丁目13-5

福祉用具はあなたの自立をささえます

あなたのささえがNPO福祉用具ネットを元気にします

床ずれ防止ハイブリッドエアマット「ピーウェーブ」

P-Wave



介護保険貸与対象商品

本製品は福岡県産炭地域振興センターの助成を受けて産学官で共同開発した商品です。

特長

床ずれが一番発生しやすい腰周り部分だけが膨縮するエアマットタイプ。
部分的なエアマットなので浮遊感が少なく寝心地がとてもよい。



特定非営利活動法人
NPO福祉用具ネット

「大切な芽を皆さんのやさしさに包まれながら育んでいきたい…」

給付費削減がつくる「貧困社会」

NPO福祉用具ネット理事長 豊田 謙二(熊本学園大学教授)

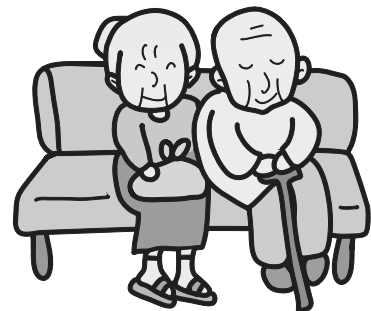
2007 年頃から「貧困」や「生活保護」に関する書籍、あるいは小林多喜二の「蟹工船」(1929 年)が読まれているようだが、それが今日的な重大課題であることを語らずに示している。「福祉国家」は21世紀に入ってとくに社会保険制度の動揺などから崩壊の危機にあったが、2009 年の世界同時不況のなかで実質的にもその信頼感を完全に失った。わが国は生命・安全網のない、文字通りの「リスク」社会の只中にある。この生活リスクを増加させている最大のものは、小泉内閣以来の社会保障費に関する給付削減政策である。それは、社会保障費を5年で1.1兆円削減するという「基本方針」なのである。初めに数字ありき。つまり、04 年の年金、05 年の介護、06 年の医療、そして 07 年の生活保護費の「老齢加算」、09 年の「母子加算」の全廃、と削減が続く。国の慢性的歳出増という過去の政治の責任を、何と現在の国民に、しかも低所得層に転嫁している。

生活保護費の削減の理由を、厚労省はこのように表現する。「低所得世帯より保護世帯の生活費は高い」。この生活保護基準の引き下げは低所得層の生活に直結する。たとえば市町村では、児童・生徒の学用品などの支給基準は「生活保護基準の1.3倍以内」と定められている。つまり、生活保護基準の引き下げは低所得者層の国民健康保険料の減免、公営住宅の家賃減免に影響し、最低賃金の引き下げなどに利用されて連鎖的に生活条件の悪化を生み出すのである。

では、何が問題の核心なのか。それは、個々人の総体的生活の一部の数値を相対化し、断片的比較値を基準にして対策を採る(あるいは、採らない)からである。今日の「格差」論の危うさもその点にある。全日本民主医療機関連合会の斉藤江美子は「老齢加算」を廃止された高齢者397人の生活実態を調査している。「廃止」で一番不足したのは食費(53.9%)で、「白いご飯だとおかずが欲しくなるのでパンで済ます」「1合のご飯を3回に分けて食べる」、そして重大なのは、「7割以上の人が地域行事や冠婚葬祭への参加を控えていた」ことである。収入減は社会関係が閉ざすのである。

「貧困」は相対的なものではなく、つまり比較される性格のものでなく絶対的なものなのである。ところが、あなたは「中流ですか下流ですか」の設問に疑問を感じない。「絶対的」とは、貧困自体の定義を示すことである。「貧困」の収入基準がわが国では示されていない。「貧困」線を引くことが「貧困」の定義を生む。今日、雇用労働者の51.3%(2007 年)が「非正規雇用者」であり、有期雇用で賃金は雇用者の60~70%、しかも社会保険の未加入が多く、20~30 歳代では実に約45%が国民年金への未納者である。フルタイムで働きながら社会保険料を納められないような、そうした所得の低さが重大な問題なのである。さらに、2003 年以降、非正規雇用者、生活保護世帯が増加し、同時に貯蓄ゼロの世帯が増加している。「貯蓄ゼロ」の家計は一度事故や災害に会った生活が困窮する。金銭的なリスクを家族・友人あるいは地域、さらに公的な支援や保障が活用できれば、最低生活はとりあえずしのげるはずである。だがそうした生命・安全網が働かない人には「困窮」が待っている。「貧困」は相対的な数値の操作のなかでかき消され、「わが国には貧困はない」と極言する政府高官もいた。

われわれは、健康や幸せ、そして豊かさという質的課題を数値でのみ表現し、相対的な比較において評することに知的躊躇が必要である。なぜなら、援助や支援は一人ひとりに向き合うことに始まり、その一人に添いつつ終わることを確認しなければならないからである。



足と靴の相談室(シリーズ3) ～歩行具としての正しい靴の選び方～

福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター 助手 中藤広美
(NPO福祉用具ネット理事)

前は相談室においでになった方への「相談から靴のお渡しまで」についてお話をしました。「足と靴の相談室」をしていると「どんな靴を選んだらよいのですか」ということをよく聞かれ、次に「私が今履いている靴は、履きやすいのですがこれで良いですか」とご自分の靴を示され、これでよいのかどうかの確認をされる方が多いです。そこで今回は、「歩行具としての正しい靴の選び方」についてお伝えしようと思います。



間違った靴選びのポイント

次のようなポイントで靴を選んでいませんか？これらは正しい選び方とはいえません。

◇ 軽い靴

→ 歩くための靴の機能が十分でない場合があります。

◇ アッパー(靴本体)が柔らかい靴が楽

→ 柔らかいと足をホールドできず、ぐらつき不安定になります。

◇ 外反母趾の形になった靴が外反母趾にはよい

→ 悪い形に合わせてはいけません。外反母趾がますます進みます。足本来の形(オブリーク)を選びましょう。

◇ スニーカーは足が痛くならないから良い

→ 歩くために考慮され、その方にきちんとあった靴ならば、皮靴であろうとスニーカーであろうとも痛くなりません。スニーカーでも痛くなる靴はあります。

◇ ヒールが高い靴は歩きやすい

→ 前足荷重になり足を痛めやすいです。ヒールの高い靴ができた経緯は歩くためのものではありませんでした。

◇ 脱ぎ履きしやすい靴が良い

→ このような靴は、履き口が広いものが多いです。ということは、足首をホールドできておらず、足が靴の中でずれてしまい、傷める原因となります。

◇ 赤ちゃんは柔らかい靴、軽い靴が良い

→ 赤ちゃんの足は軟骨です。まだ、骨化しておらず骨は成長過程にあります。その為にも、足がぐらつかずしっかりとホールドしてくれ、踵骨をサポートしてくれるようなしっかりとした靴を選びましょう。

◇ 等...



左図は靴の構造(図:小野由可里)を示しています。
この図を見ながら「歩行具としての正しい靴の選
び方」をお伝えしようと思います。



形が本来の足の形(オブリーク)

トゥボックスに厚みがある

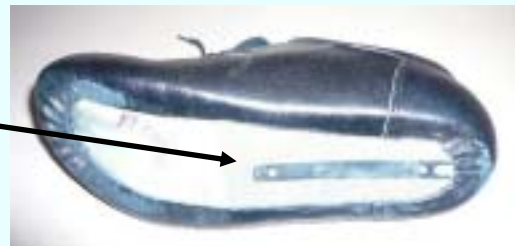
→ 靴の中で足がグーパーできるくらいの余裕が必要です。足の指や爪を圧迫しません。

ヒールカウンターがしっかりしている

→ 立った時の姿勢を保つために大切な踵が倒れ
ないように支えてくれます。

中底がしっかりと荷重を支える(シャンク入り)

→ 立った時の重心がかかる個所を支えてくれま
す。



安定性のあるアウトソール

→ 後から見るとフレアになっていると、とても安定します。

アウトソールが衝撃を吸収する

適度なトゥスプリングとヒールロッカー

→ 足関節の背屈、底屈をサポートしてくれ歩きやすくなります。

実質のヒールの高さが1～1.5cm

ひも、またはベルトでしっかりとホールドできる

→ 靴の中で足がずれません。さらにひもは各自の足の幅、甲の高さに合わせて調整しやすいです。

アーチサポート機能のあるフットベッド

→ 3つのアーチをサポートします。

前回予告していた、「正しい靴の選び方」は次号でさせていただきます。(つづく)

出前講座を行います。

NPO福祉用具ネットの理事や会員には、介護や福祉用具に関する専門的知識の優れている方がおられます。そんな仲間の協力を得て、皆様の事業所等に出向いて講習会を行う「出前講座」を開催いたします。詳しくは事務局担当の大山までお問合せ下さい。(電話 0947-42-2286)

心ひかれた福祉用具 マイチョイス (シリーズ8)

NPO 福祉用具ネット会員(理学療法士) 井内 陽三

数字だけでは難しい。

「これで行ってみましょう！」

ある日、NPO へ個人で使用するための車いす購入の相談で、事務局長に同行させてもらったときの話。円背の強い、80代の女性の方でした。細身で、足が長い。昔は背が高い方だったのかなと思いながら、少しお話できました。今使っているのは、その方にとっては、大きすぎる標準型車いすで調整がほとんどできない。座っている姿勢は明らかに崩れており、「大変そうな」「きつそうだな」と見て取れる状況がありました。

ご家族とお話し、必要な機能などから2種類の調整できる車いす(モジュール型の A、B)が候補になったのですが、価格などにより A を選択。試用してもらうこととなりました。以前の状態より姿勢がずいぶん良くなり、継続して様子を見ることになりました。しかし、やや身体の収まりが悪い様子……

後日、B の車いすを試す機会があり、「せっかくなので、比較してみた方がいいよ」となり、調整し、座ってもらったところ、身体の収まりが大変良くなりました。事務局長「なんでやろうか……？」

大きな違いは、「横の広さ」。どちらも、座面の幅はカタログ上あまり変わらないのですが、

- ・ Aは、肘掛けより内側に背もたれのパイプあり
- ・ Bは、肘掛けと同じ幅で背もたれのパイプあり

聞いている方は、なぜなぞのように感じるのでしょうか？

自分なりの解釈を加えますと、通常座幅などを計って、車いすを選定すると思います。しかし、今回のように円背が強く、細身の方であったので、

- ・ 背中部分(バックレスト)に当たる面積や体重のかかり方が大きいため、身体の幅も考慮する必要があるのではないか
- ・ 細身の方で殿部への配慮として、厚みのある空気式クッションを採用したため、座面が上がり、結果として背もたれの高さも合っていない状態になった。

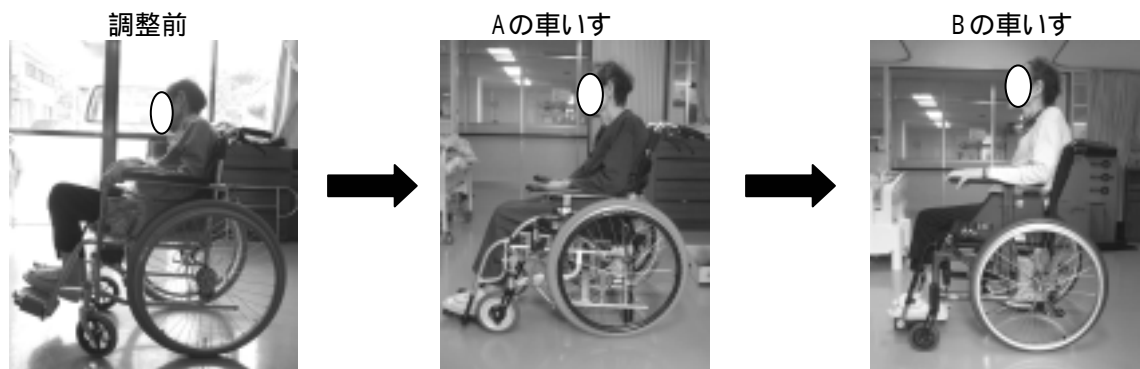
と思われました。

この車いす調整から、この方に心身ともに大きな変化がみられるようになったのでした。

このお話は、また後日……

(車いす購入のワンポイント)

- ・ まずは、その方に必要な機能を検討しましょう。(身体機能面、介護面ともに考慮することが大切！)
- ・ できるだけ、お試しをしましょう。(可能であれば1W程度は)
- ・ 多くの人の意見を聞きましょう。(一人の視点では、見えないことが多くあります。ヘルパー、看護師、家族、理学療法士など多くの視点が有効です。)



上記の写真はご家族のご了解をいただき掲載させていただきました。

今、思うこと。「福祉用具の開発に王道なし」

(その19)

九州日立マクセル(株)開発本部長 坂田 栄二
(NPO福祉用具ネット理事)

お客のご意見は 宝物

NPOが初めて出展した東京ビッグサイトの国際福祉機器展。あわただしい3日間が終わった。

この展示会の結果は、14カ国、630社、25,000点の展示品が出展され、3日間で138,000人の来場者があった。

NPO福祉用具ネットのブースにも2,000名以上の方が立寄ってくださり、用意したカタログもほぼ無くなったほどである。

この小さなわずか4畳半のブースの中で、さまざまなお客様と出会い、たくさんの色んなご意見をいただいた。どの意見や質問も、私たちにとっては頷けるものであり、「ハッ!」と気づかされるものであった。展示会に同行して見守っていた設計者の中谷は、お客様の声を「すばらしい宝物をもらったね!」

と喩えた。

もう来年の展示会?

平成15年10月24日、展示会が終わって早くも1週間が過ぎた。この7日間は、残務整理に追われ何も手をつけていない。大山は、会議室に皆を集め、「もうすぐ、来年の展示会が始まるよ!いつまでも浮かれてなくて、ちゃんとせな!。」

みんなの意識は、「まだ終わったばかりなのに」というものであるが、大山はもう来年を見据えての戦闘モードだ。「来年こそは、P-WAVEはそのまま売れる商品にまで仕上げんと。」

「もう1つ、他の商品も開発しようよ。」

いつもの調子で矢継ぎ早に指示を出す。

「中谷さんは、お客から言われたことをちゃんと試してみよ。来年は質問してくれたお客さんに、回答せんといいんのやから。」

と、客から指摘された点を纏め上げた報告書の中谷に渡した。いつの間に纏め上げたのかわからないが、箇条書きで項目ごとに分けてびっしりと書き込まれている。ミニキュービックセルを使って隣同士が交互に膨縮する基本構成は、ほとんどのお客が驚きの声を上げてくれたが、売れる商品としての細部の仕上がりに不満があるというものがほとんどである。これらの改良には、多くの時間がかかるのは眼に見えている。

「これを一人でやりあげるんかい?」

中谷は、あまりの改善点の多さに音(ね)を上げた。

「そうさ!(あたりまえの方言)あんたが一番よく知っとろう

もん。」

と、促されて中谷は席を立った。松原は、見かねて

「俺も手伝うよ」

と優しく声を掛けた。しかし、大山は鞆からメモを取り出しながら、

「ダメよ。松原さんは、このテーマがあるから…」

次の開発テーマ

そのテーマとは、車いす利用者用の体重計である。

そのテーマは、展示会の会場で、松尾先生が車いすメーカーの社長から開発を頼まれたものである。

この車いすメーカーの社長は、脊損のため自ら車いす利用者である。

展示会場で、大山と坂田は松尾先生から

「面白い社長さんが会場に居たからお会いしてみないか?。」

と呼ばれて、紹介された。

「わたしは、事故で車いすが必要になったとき、普通の車いすが気に入らなかったから、自分が欲しいというものを自分で設計して作ったんだ。それを乗り回していたら、“私にも作ってくれ”という人がたくさん居たから、商売を始めた。車いすは使用目的に合わせて色んなものがあっていいと思うんだ。…」

熱い思いを持った社長である。

「だけど、私は自分の体重を知らないんだ。体重は健康管理には必要だが、今は病院に行かないと計る体重計が無

い。私は病院に行くことはないし、自分のために買おうと思っても市販の体重計は、20万円以上もして、普通の人じゃ買えない。私は安い家庭用の体重計が欲しい。是非検討してくれないか?」

社長は皆が喜ぶ商品を作るべきだと力説した。



約30万円の市販の体重計

松尾先生も同感だとなづく。坂田は、現実にはそうかもしれないが、果たして何台売れるのだろうかと不安も持った。社長は坂田のそれを悟ったのか、

「どれくらい売れるかは判らないが私みたいに欲しい人は多いはず。最初は予約販売という形をとって、予約数量が一定量に行きそうになかったら、あきらめるが…」

社長は、坂田の不安に応えるかのように、即座に販売形態について回答した。

商品開発を決断するとき、マーケティング担当者は、必ず同時に販売計画、販売後のサービス保守計画を立てる。社長の頭の中には、既にこれらのことが練り上げられていた。

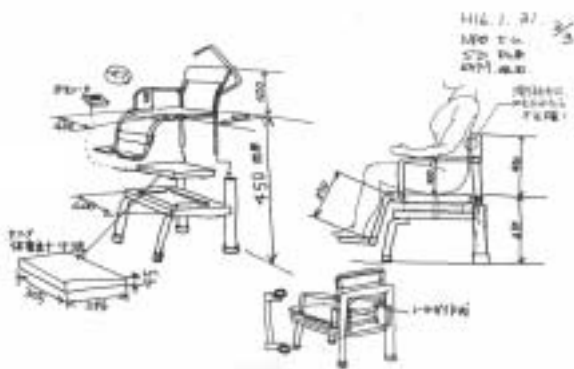
坂田は話を聞きながら、大山を見た。その商品の必要性を納得している様子が見てとれた。

「お話は良くわかりました。帰ってさっそく検討してみましよう。」

坂田は勝算があると確信して、社長にこう返事した。しかし、このとき坂田は、まだ体重計の難しさに気づいていなかった。というより体重計に色んな法律が絡んでいることを知らなかったのである。このことが後のち、開発の深みとなって現れた。

出来上がった試作図面

平成16年1月31日、会議室で、大山、松原、坂田が額を突



き合わせていた。白板には、イスの絵が書かれている。車いす用体重計のイラストであった。分解図に寸法までもが記入されている。かなり突っ込んだ検討の結果であろう。



見た限りでは、簡単に出来そうである。テーブルの上には、他社品のカタログだけでなく、ホームセンターで買ってきたような如何にも安そうな980円の体重計が置かれている。

「これなら、単純な構造で

安くできるんちがう？」

と言う大山の誘いに、松原が反応した。

「試作してみようか？1週間くらいで出来ると思うよ。」

翌日から、松原はあちこちに電話を掛けている。どうやら市販のシャワーチェアを改造して、そこに安い体重計を組み込もうとしているようだ。これなら短期間で試作できる。さすがに経験豊かな老設計者である。

1週間後、松原は

「大山さん、試作品が出来たよ。見に来ないか？」

明るい調子の電話振りである。坂田は、大山が来るのを待てずに、さっそく座ってみた。肘掛部分にデジタルメータもちゃんと付いている。「63.2kg」を示した。あれっおかしいぞ。痩せ気味に表示されている。そう感じた坂田は、

「松原さん、オレ、こんなにやせてないよ！」

といぶかしげに聞いてみた。松原は、特段困った顔をするでもなく、平然として、

「そりゃそうさ。体重計は真ん中で計るように出来ているから、前かがみになったり、後反りになると少なく表示するんだ。そこのところが今悩んでいる所だ。」

そうか、やはり試作をしてみると頭の中では想像できなかった抜けている点が見つかるんだ。

そう思った坂田は、実際の利用者を想定してみた。しっかりと座位保持できる利用者なら、体重計の真ん中に体重の重心を持てることが出来るが、座位保持が難しい人では使えないことになる。これは開発を進めていく上で将来問題になるのでは。

議論の始まった丁度そこへ大山がやってきた。大学から工場までは5分くらいの近い距離である。

開口一番、

「うわー、ようでけたね(良く出来上がったね)」

松原はしてやったりと、口元が緩んだ。日頃、あまり褒めない大山からの言葉だから無理もない。

「よーし、今年の福祉機器展はこれが主役たい。…」

そう言いながら腰掛けた大山の言葉が止まった。

「イスがグラついて不安定よ！ちゃんとしっかりならんとね」

「今、丁度それを話したとたい。座面がぐらついたんじや、体重が正確に計れんのよ」

と言う坂田に、大山は

「何か、手が打てんとね。そうせんと売れんばい。」

「言われんでも分かってるよ。ねー松原さん。」

「あー…、そうだ、座面を1点中心支持から4点周縁支持に代えれば直るさ。」

いつもの調子で楽観的に松原は切り替えた。

「どうでもいいけど、松原さんが担当だからね。そうそう、来週、松尾先生が県大に来られるから、この試作品を評価してもらおうか？」

そう言うなり、大山は首から提げた携帯電話を開き、電話を始めた。

すぐに1週間が過ぎた。そう感じるほど、改良するのに手間が掛かった。松尾先生がやってきた。



「よく出来たじゃないか！ちょっと乗ってみようか？」

松尾先生は、体重計の横に移動し、車いすから移乗した。

事務局からのお知らせ

■ 平成21年度通常総会及び講演会を開催しました。

5月18日月曜日夕方からNPO福祉用具ネット8回目の通常総会を開催いたしました。

NPO福祉用具ネット正会員数114の内、出席者と委任状合わせて95の個人・団体会員数の表決数で定足数を満たしていることを確認し開催されました。

平成20年度の事業報告ならびに決算報告と平成21年度事業計画案と予算案すべてに全員一致で議決されましたことをご報告いたします。

また、今年度から新しい事業として介護や福祉用具に関する出前講座を行うことも提案され承認されました。

総会に欠席をされた皆様には詳細をお送りいたしましたのでご覧下さい。

総会開始前には豊田理事長による、「ドイツの認知症ケアについて」の講演会も開催されました。

人権を尊重したドイツの実態について報告があり、大変興味深い内容でした。

■ 7月1日から役員一部変更についてお知らせ

総会において承認されましたが、落合正彦理事【九州日立マクセル(株)取締役社長】が退任され、新しく朝比奈聡理事【グリーンコープ山口福祉事業部部長】の就任が承諾されました。任期は平成22年6月30日まで。

■ 出前講座を行います。

団体会員様からのご依頼による出前講座を行います。詳しくはNPO福祉用具ネット事務局にお問合せ下さい。

第1回目の出前講座は6月21日曜日に九州ホームケアサービス(株)様からのご依頼で、久留米市にて「介護職のための腰痛対策講座パート2」を開催いたしました。

■ 平成21年度 第1回 介護者研修会のご報告

4月19日曜日、市川洸先生を招いて、「介護職のための腰痛対策講座」を開催いたしました。

参加者は110名。福岡県内全域、山口県や大分県からも参加していただきました。

大変好評で参加者の皆様からのアンケートの結果はホームページに掲載していますのでご覧下さい。

■ 平成21年度NPO福祉用具ネット新会員を募集中!

会員となってお一緒に活動をささえていただけませんか？(会員には研修会受講費用の割引あり。)

個人会員 入会金 1,000 円 年会費 4,000 円

団体会員 入会金 2,000 円 年会費 30,000 円

賛助会員 1口 3,000 円以上から

お問合せは事務局まで。

ホームページから申込用紙がダウンロードできます。

■ 20年度会員の皆様で、更新手続きをまだ済まされていない方も早めに手続きをお願い致します。

■ 平成21年度「福岡県立大学福祉用具研究会」もいよいよスタートしました。

平成10年4月からスタートし、12年目を迎える研究会。今年度は申込者30名、7回シリーズで開催予定。

第1回目を5月29日に開催。テーマは今注目されている「尿吸引ロボ ヒューマニー」について、NPO福祉用具ネット事務局の大山が報告しました。NPO福祉用具ネットは本製品の検証に関わりましたので、メーカーの協力を得て、いち早く研究会会員の皆様に紹介をさせていただくことができました。この製品は関東地域限定で5月から発売をされています。一日も早く九州での発売に期待したいと思います。6月19日には「特別養護老人ホームのオムツ利用について」開催。

■ 8月23日曜日 認知症対応についての研修会を開催いたします。

テーマ: 「認知症の方の理解と対応について」

講師: 第2宅老所よりあい 所長 村瀬孝生氏

申し込み締切: 8月17日曜日まで

受講費用: 有料

所定の申し込み用紙にて事務局までお申込下さい。

詳しくは事務局までお問合せ下さい。

■ 福祉住環境コーディネーター協会主催見学会情報

福祉住環境コーディネーター協会からの委託事業として当NPOでは施設見学の企画をしています。

今後の見学の予定

・7月11日土曜日

「熊本機能病院」様(熊本市)

・9月12日土曜日

「九州国立博物館」様(太宰府市)

参加費用は有料です。

事前に福祉住環境コーディネーター協会への申込が必要です。詳しくは福祉住環境コーディネーター協会のホームページをご覧ください。

(福祉住環境コーディネーター協会会員様優先となっています。NPO福祉用具ネットへのお申込はお受けできません。)